

TIME	内容
	オープニングタイトル
	<p>田村： お元気ですか！市民のみなさん。麒麟の田村裕です。 そして今回の「お元気アナウンサー」はこの方です！</p> <p>廣川： みなさんこんにちは。廣川陽子です。お久しぶりです。お願いします。</p> <p>田村： よろしくお願いします。どうもどうも。</p> <p>廣川： ご無沙汰してます。</p> <p>田村： どれくらいぶりですか、スタジオに来るのは。</p> <p>廣川： 去年の春ぶりですかね。</p> <p>田村： なるほど。じゃあ、1年近く。ご無沙汰しております。</p> <p>廣川： 元気ですか？</p> <p>田村： なんとか元気しております。本当にもうおかげさまで。 コロナ以降、会ってないってことですよね？</p> <p>廣川： そうですね、自粛のちょっと前くらいあたりからですもんね。</p> <p>田村： 気絶してたことがあります？</p> <p>廣川： 気絶？気を失うことですか？ないです。</p>

田村：

僕も無かったんですけど、初めて3日前くらいに気絶を家で経験しまして。

廣川：

どうしたんですか？

田村：

真ん中の娘がよく後ろにおんぶした状態で「私、どこでしょう？」って「え？どこ行った？どこ行った？」みたいな遊びを昔からやってるんですよ。その時に本格的に探し始めるノリがあって、一応立ち上がって探すフリをしたんですけど、なんかちょっといつもよりしんどい気がして、いつもやったら頑張るんですけど、今日はやめようと思ってソファに座ろうとした気がするんです、たしか。

廣川：

あ、もうそこから。

田村：

なんせ気がついたら寝転がって「パパ、なにしてるの？」みたいな。そして奥さんから「危ないやんか！」って。娘が後ろにおるのに、そのまま倒れたから「危ないやん！何してるの！」って。でも僕は「あれ？今ここ、どこ？あれ？家やな。家族おる。あれ？俺、仕事は？あれ？何してるの今？」って。上のお姉ちゃんが「白目むいて倒れた」って言ってて、奥さんだけが爆笑しだして。

廣川：

何事もなくてよかった。

田村：

まあまあ、確かにね。でも、まさか4歳児に締め落とされる日がくるとは思ってたんで。

廣川：

ちょっと遊び方を考えないといけないですね。

田村：

「今度から首に体重かけないでね」ってことにはなったんですけど。

廣川：

それでは、特集にまいりましょう。

今回の特集は「あの全力ティーンズは今！」と題して、過去にこの番組で紹介したティーンズのその後を取材しました。

## 特集「あの“全カティーンズ”は今！」

### ナレーション

夢に向かって駆け抜ける10代の若者を紹介する「全カティーンズ」。以前、このコーナーに出演してくれたティーンズたちの気になる“今”を追いかけてきました。

### タイトル：「あの“全カティーンズ”は今！」

### ナレーション

世古桃詩（せこ・ももか）さん。私たちが取材した当時まだ8歳でした。あれから5年。桃詩さんは現在14歳です。

### 桃詩さん

夢はそんなちっちゃい時から変わってなくて、劇団四季で舞台に立つことと、歌のお姉さんになることです。

### ナレーション

桃詩さんは3歳の時、ミュージカル劇団に入団。5歳で全国童謡歌唱コンクールにお父さんと出場し、近畿ブロック代表に選出されました。また、地元藤白台の記念事業で作られた「ふじしろ音頭」の歌い手を務め、極め付きはミュージカル「赤毛のアン」で上白石萌音さんらと舞台上で共演しました。

### お父さん

小さい時からすごいと思ってましたね。歌の歌詞が伝わってくるというか、僕らには持っていないものを持っているのかなという気がしますね。

### お母さん

娘の大ファンなので、ずっと追いかけて応援して行こうかなと思っています。

### ナレーション

4歳の頃からずっと桃詩さんの成長を見てきた鈴木亜由子先生は？

### 鈴木先生

まずは、やっぱり人に伝えるエネルギーがあるというか、想像力が豊かかなとは思うので、自分の世界をパッと作って空気を変えるところがありますね。

ナレーション

大きな夢へ向け着実に突き進む桃詩さんは、去年、ミュージカルスター発掘オーディション「スマッシュキャバレー」の大阪予選を見事突破。そして、全国の予選を勝ち抜いたメンバーで競うグランプリ大会へ向け気合が入っていたそんな矢先のことでした。

桃詩さん

コロナの影響で延びてしまった。ちょっと悲しいなという気持ちはあったんですけど、でも、もっと練習しようという気持ちの方が大きかったです。

ナレーション

実は桃詩さん、中学ではギター・マンドリン部に所属しています。

桃詩さん

自分で伴奏もギターで弾いて一緒に歌うっていうのがすごい楽しいなって思います。早く歌いたいなって思いながら、部屋で一人で弾いています。

ナレーション

毎日、歌の世界に明け暮れる桃詩さん。実はもう一人、歌に夢中な人がいるんです。

なんと妹の琴詩（ことか）ちゃんも桃詩さんの影響を受け歌のレッスンを始めたんです。

桃詩さん

ダンスとかもミュージカルとか練習してて、家で私が教えたりしてやってるんですけど、がんばってます、一緒に。

ナレーション

大好きな歌を幼い頃からずっと歌い続ける桃詩さん。  
そばには、いつも大切な人たちがいました。

桃詩さん

亜由子先生は、私が元々失敗したら泣いちゃうような時とかもあったんですけど、そういう時に「大丈夫だよ」とかそんな言葉をかけてくださったりして、先生に学んだのは歌だけじゃないなっていうのは、思ってたほど感謝しています。お父さんお母さんは、小さい時から支えてくれて、歌を応援してくれて、見守ってくれている感じで、そういう人たちがいなかったら、絶対今の私はいなかったと思います。夢に向かって自分らしく、支えてくださる人に感謝しながら自分の歌を歌っていけたらいいなと思います。

ナレーション

お次の全カティーンズは取材当時15歳だった中嶋七萌（なかじま・ななほ）さん。あれから4年。19歳になりました。

七萌さんは15歳の時、全国ジュニアバレエコンクール・ジャパングランプリで年間スカラシップを受賞し、アメリカ・フロリダにバレエ留学。そこで主演の座を掴むなど、世界の舞台で活躍できるバレリーナとして、ますます将来を有望視されています。

七萌さん

バレエ自体が好きなんで、魅力というのがありすぎて伝えきれない。海外のバレエ団、プロのバレエ団に入ることですね。

ナレーション

七萌さんは5歳の時、お母さんの勧めでバレエを始めました。中学の時には、オオサカプリ・全国クラシックバレエ・コンペティションに2年連続で上位入賞するなど、幼い頃から様々なコンクールで優秀な成績を残し、順調に成長してきました。

5歳の時から通うバレエスクールの川上先生が感じる、彼女の魅力とは？

川上先生

やっぱり大人になったという感じですね。あの時はどういうんですか  
上手でテクニックオンリーの方が強かったです。でも今はやっぱり内面的な表現も体も大人っぽくなっていますし、全部が成長したんじゃないでしょうかね。

ナレーション

ということで、現在の彼女に当時取材した映像を見てもらいました。

七萌さん

今踊っているバリエーションは、アラバスクっていう…

ナレーション（※過去映像）

こちらが中嶋さん得意というアラバスクです。いやあ綺麗ですね。

七萌さん

最初に出てくるときに、お客さんに見て欲しいという気持ちを大切に、そこから踊り出したら、いつも先生に言われていることとか、コツとかを思い出しながら踊っています。

ナレーション

さて七萌さん、映像を観た感想は？

七萌さん

喋り方が、ちょっと子ども過ぎるというか、全然喋れてなかったから、そこが恥ずかしくて。やっぱり年齢も年齢なんで、役柄になり切れるようにどうやって動いたら…、例えば、身長が小さい分、舞台の上に立つと小さく見えちゃうので、大きく踊れるように工夫したり、どこで表情を変えたりするとか、考えたりして踊ってますね。

ナレーション

順調にバレエダンサーへの階段を登る七萌さん。  
実はカナダの名門「ゴーバレエ・アカデミー」のユースカンパニー入学が決まっているんです。プロのバレエダンサーを目指す夢にまた一歩近づきました。

七萌さん

もっと上手になれるチャンスを掴んだんじゃないかなと思って  
ちょっと嬉しかったです。

ナレーション

しかし、コロナの影響により9月から通う予定だったカナダへの挑戦は  
やむなく中断。現在は、川上先生のもとで日々レッスンを続けています。

七萌さん

カナダの子とかはもうトレーニングに入っているわけなので、自分はもうどんどん  
置いていかれているなっていうのが実感しているというのがあるので、  
焦りますね。

ナレーション

やっと叶った夢の一步が踏み出せず、焦る七萌さん。  
そんな彼女を癒してくれるモノがあるんだとか。それは！？

七萌さん

「鬼滅の刃」です。もう6回行きました。6回中6回泣きましたね。  
ピンチの時とかに心の中に出てきて、「諦めるな」と。そのシーンを見て、  
「ああ自分も諦めたらアカンな、ここで終わっちゃうな」っていう。

お母さん

(D：この状況、お母さんの的にはどうなんですか？)  
始めはね、やたらグッズも買うし19歳にもなってって思ってたんですけど、  
私の方がドハマりしてしまいました。

ナレーション

「諦めない気持ち」。折れそうな心を必死に奮い立たせている七萌さん。その想いは、彼女の才能を見出し育ててくれた川上先生の期待に応えるためでもありました。

七萌さん

川上先生は、小さい頃からすごくよく見てくれて留学先でも私のことすごく気にかけてくれたりして、いつかは恩返しができたらいいなと思っています。

川上先生

ここまで頑張ったんだからバレエを貫き通して、いつかこの日本に名前が聞こえてくるようになったら嬉しいですね。

ナレーション

周囲への恩返し、そして自分の夢に向け、強い気持ちで走り続けています。

七萌さん

誰よりも「やったろう」という気持ちがありますね。

ナレーション

今日も夢のため、七萌さんは踊り続けます！



TIME	内容
	<p>田村： 素晴らしい！ でも2人ともコロナの影響が、多かれ少なかれ、それこそ中嶋七萌さんはカナダに行かれへんとか、かなりキツイ状況でしょうね。</p> <p>廣川： そんな中でもお二人とも前向きに自分の技とか歌声を磨いていこうという前向きな姿が印象的でしたね。</p> <p>田村： 練習する時間がむしろ出来たくらいやっていう。大成する人ってポジティブで自分のエネルギーを良い方向へ変えていくのが上手い人が多いですから。ぜひとも頑張ってもらいたいですけど。</p> <p>廣川： また自分のことだけじゃなくって、自分の周りへの感謝を忘れないとか、周りへの恩返しを忘れないっていう姿勢も素敵ですよ。若いのに。</p> <p>田村： 確かにそうですね。桃詩ちゃんは妹ちゃんもそうですけど、歌ってる時の笑顔が良いですね。</p> <p>廣川： いきいきしてましたね。</p> <p>田村： 歌が好きなのが伝わってくるし、七萌さんももちろん大人の魅力が出て来始めて。でも、やっぱり僕も自分の昔のネタ見るの嫌なんですよ。</p> <p>廣川： やっぱり苦手ですか？</p> <p>田村： 恥ずかしい。特に下手な方やから、ホンマに恥ずかしいんですよ。見てられないんですよ。七萌さんも昔の自分の映像見て「ん～」って。</p> <p>廣川： 苦い顔してましたね。</p>

田村：  
やっぱりプロ意識が高いからこそ当時の自分に対しても「もっとちゃんとやってくれよ」みたいな気持ちで見てたんやろうなあと思いながら。

廣川：  
2人の今後に期待したいですね。

田村：  
鬼滅にあんなハマってるんや。

廣川：  
観なアカンな。

田村：  
映画ね。「早く観たい」って楽屋で言ってましたけど、観に行ってください。

廣川：  
今回ご紹介した二人の当時の映像はどちらも市のホームページからご覧いただくことができます。

田村：  
残ってるんや。見れるんや、フルで。めっちゃ良いじゃないですか。ぜひとも見てください。お願いします。

廣川：  
「吹田市 お元気」で検索してください。以上、特集でした。

<ワンポイント手話>  
初詣はどこに行きますか

TIME	内容
	<p>田村： 続いては「田村が食べたい！吹田エール飯！」</p> <p>(フライングタイトル)</p> <p>廣川： このコーナーでは、今まで吹田エール飯で掲載されているお店をエリアごとに紹介してまいりましたが、今回は、田村が食べたい？</p> <p>田村： そうなんです。タイトルに入ってきましたけど、今まで6エリア18店舗のお店を紹介しましたが、その中から食べたいお店をスタッフとも相談しまして、さすがに「持って来てもらおうよ」と。</p> <p>廣川： 毎回、食べられてないですからね。</p> <p>田村： そう。1回しか食べられなかったんですよ。その1回が無ければ、僕も「このコーナーは無いコーナーや」って割り切れたんですけど、1回持ってくるもんやから「食べたい！食べたい！」と余計に火がつきまして「1回くらいは食べさせてくれよ」ということで相談して決めましたので、さあ、いったい何が選ばれたんでしょうか？</p>

(VTR)

田村：

どれも印象に残ってますけど、「だごや」さんとかね。  
だご汁が付いてるっていうのが斬新で。そもそも弁当が豪華なんですけど、  
味噌汁が付いてるのってたまにありますけど、だご汁が付いてるって  
なかなか無いから、旨そうでしたけどね。「ジーカフェ」さんの安すぎる弁当も。

スタッフ：

印税で何個買えるって。

田村：

とんでもない数が買えてしまいますよ。そうそう！お寿司も豪華やったしね。  
スパイシーさん、相当言ってましたもんね、お寿司。  
スパイシーさん、マジで食べたそうやったもんな。メンチカツも旨そうやな、  
「カフェ グリラ」さん。あ！チキンオーバーライスね！  
これ食べてみたかったな。関大前でしたよね、たしか。

スタッフ：

これ食べましたよ、スタジオで。

田村：

あ、これ食べたんや。だから覚えてるんや。そうか。これ選ぶんですよね？  
うわー、マジか。どうする？ うわー。え〜〜っ。これ酷やで。

TIME	内容
	<p>廣川： ということで「田村が食べたい吹田エール飯」の発表を 田村さん、お願いします！</p> <p>田村： それでは「田村が食べたい吹田エール飯」は！ 古民家カフェ七海さんの「イチゴパフェ」です！まさかのスイーツ！</p> <p>廣川 イチゴパフェ！</p> <p>田村： イチゴパフェを選んできた！</p> <p>廣川： その理由は？</p> <p>田村： もちろん他のご飯も全部美味しそうで食べたいものばかりだったんですけど、 いちばんこれが味が想像付きにくい部分があって、なんせ見た目もすごい。 見た目すごい分それなりのお値段やったんですよ。吹田のあの場所で この値段で勝負するってことは、相当こだわってるんちゃうかなと、 こだわりを感じて惹かれてしまいましたね。</p> <p>廣川： その田村さんの熱い想いを直接お店の方に伝えた方が良いんじゃないかと いうことで、実は今「古民家カフェ七海」の店長の南さんとお電話が繋がって いるんです。南さ～ん。</p> <p>南さん： は～い、こんにちは。「古民家カフェ七海」店長の南です</p> <p>田村： どうも～。</p> <p>廣川： こんにちは～。</p> <p>南さん： こんにちは。はじめまして。</p>

田村：

田村に選ばれましたよ。

南さん：

ありがとうございます。今回はイチゴパフェを選んでいただきまして、  
とっても嬉しい気持ちでいっぱいです。

田村：

今、スタジオに来てるんですけど、何ていうんですかね、すごい豪華やし、  
すごいエネルギーを感じるようなパフェなんですけど、  
どういったところにこだわりがあるんでしょうか？

南さん

イチゴは人気がありますので、時期によって品種は変わるんですけど、  
農家さんより取り寄せをさせていただいてまして、ジェラートも自家製で  
イチゴパフェに入ってるのは当店人気の塩アーモンドジェラートになります。

田村・廣川：

塩アーモンドジェラート。

南さん：

そうなんです。アーモンドプクリネっていうのを砕いて、あと岩塩も挽いて、  
ミルクベースで混ぜて作ってるんですけど。

田村：

そうか。イチゴだけじゃないんですね。ジェラートのアイスにもこだわりが。  
お店に行けばジェラートも単品で売ってるんですよね？

南さん：

そうですね。ジェラートも単品で食べていただけますので、ぜひ田村さんも  
来てください。

田村：

さあ、これは楽しみですね。アイスの下にも…。

廣川：

すごい量なんですよ！

田村：

これ、すごいんですよ、このブロック。

南さん：

ほぼ1パックいちごを使っていますので。

廣川：

贅沢！

田村：

やっぱり南さんもイチゴ好きなんですか？

南さん：

はい！大好きです！

田村：

でしょうね。これを作るというのはね。では、さっそくいかせていただきます！  
アイス少なめになってしまいましたけど、いきます！  
う～～ん！良い！！

廣川：

口いっぱいイチゴ頬張りましたね。

田村：

なるほど！塩ジェラートの塩分めっちゃ良い！

廣川：

本当に大きいイチゴが乗ってますよ。いきますね。  
まず、いちごが甘い！なんか春を感じますね。

田村：

季節先取りや。後味でティラミスの風味があって、すごいコクがあって、  
コクがあるのにあっさりしてる。イチゴが映えるクリームですね。

南さん：

そうですね。イチゴを際立てるといいですか。

田村：

これは選んで大正解やな。マジで旨い。これは値打ちありますね。

南さん：

こちらこそ、ありがとうございます。

廣川：

甘いもの好きの田村さんも太鼓判ですね。

田村：

これはどこに出しても恥ずかしくないよ。

これは近くの方はマジで行った方がいい。めちゃくちゃ旨い。

廣川：

ありがとうございました。

田村：

コロナに負けずに頑張ってください。

南さん：

はい！頑張ります！

田村：

応援しております。近くに行ったら顔出します。

南さん：

田村さんも頑張ってください。

田村：

ありがとうございます。

南さん：

ありがとうございました。

廣川：

ありがとうございました。「古民家カフェ七海」の南さんからお電話でお話しをお伺いしました。

南さん：

ありがとうございました。

田村：

以上、「田村が食べたい吹田エール飯」でした。



TIME	内容
	<p>＜廣川 ナレーション＞ ※事前収録</p> <p>新型コロナウイルス感染症緊急対策アクションプランに以下の2件の追加を11月定例会に提案し、可決されました。</p> <p>市民生活への支援として 低所得のひとり親世帯に臨時特別給付金を再支給します。</p> <p>医療・福祉現場への支援として 高齢者施設などへの入所に伴うPCR検査等費用を補助します。</p> <p>詳しくは市のホームページをご覧ください。</p> <p>市の公共施設に関するお知らせです。 高齢者の新型コロナウイルス感染を減らすため、 公民館、市民ホール、コミュニティセンターなど 高齢者の利用の多い施設の休館期間を1月末まで延長しています。 市民の皆さまにはご不便をお掛けしますが、 感染拡大を防止するための措置ですので、ご理解とご協力をお願いします。</p>

TIME	内容
	<p>田村： 続いては、市内で行われた出来事などをご紹介します「吹田のトピックス」です。</p> <p>廣川： 今回は年末の話題をお届けします。</p>
	<p><u>ナレーション</u></p> <p>12月20日、メイシアターで「すいたティーンズクラシックフェスティバル」がおこなわれました。</p> <p>これは吹田における音楽家の卵の育成と、クラシック音楽の楽しさを普及すること、また若く輝く才能の発掘と発表の場の提供を目的に開催しているものです。</p> <p>メイシアターの改修工事などにより、4年ぶり11回目の開催となった今回は、新型コロナウイルスの影響により無観客で開催。予選を通過した15組が出演し、ピアノや弦楽器、管楽器の演奏、声楽など、日頃の練習の成果を存分に披露していました。</p> <p>また演奏後には、審査員が出演者に質問やアドバイスをおこない、出演者の技能向上を後押ししていました。</p> <p>&lt;インタビュー&gt;</p> <p>まあ良かったと思います。これからはもっと自分の思うような音を出せるようになりたいし、あと先生のような音にも、もっと近づいていけたらなって思います。</p> <p>国の雰囲気、街並の雰囲気、映像、どんな情景なのかっていうところを、音に落とし込んで表現するっていうところが、すごく自分の中では難しかったんですけど、いい勉強になったなあと。それが上手く本番で発揮できたんじゃないのかなあっていうふうに感じます。</p> <p>4年ぶりということで若干心配したんですけども、レベルが思った以上に上がって、素晴らしい演奏の連続でしたし、新しい人もいましたけれども、これまでここで育ててくださった方が集って演奏して下さってるっていう側面もすごく見られて、それが大きな収穫だったかなと思います。</p> <p>今後も続けていくべきイベントだと思いますので、みなさんの応援をこれからもよろしくお願いします。ありがとうございました。</p>

TIME	内容
	<p><u>ナレーション</u>（廣川）</p> <p>12月27日、市役所正面玄関前にジャンボ門松が設置されました。</p> <p>これは、来庁者に大きな福が授かるようにと平成16年末から毎年製作されているもの。</p> <p>製作を行っているのは、千里の竹の保全と、竹にまつわる文化の構築に寄与しようと活動している「千里竹の会」のメンバーです。</p> <p>門松は「千里竹の会」のメンバーが前日に切り出した竹を中心に据え、松や梅、ナンテンなどをあしらって製作。</p> <p>およそ1時間半かけて、一対の見事なジャンボ門松を完成させました。</p> <p>（インタビュー）</p> <p>もう今年で16回目ですか。そういうことになりますので、だからだいたいプロですわ。昨日も約20人ぐらい、今日も大体20人ほど来られますんでね。昨日そういうことでカットしてここに今日飾りつけたと。しかし、みなさん楽しくやってるでしょ。</p> <p>今年はもうコロナ、コロナでね、みなさん暗い年だったから。しかし来年こそは、みなさん方もよく話してはるけども、明るくね、輝かしい年になったらいいなと。やっぱりより良い1年になっていかんとね。そんな願いを込めてやってますけどね。</p>

TIME	内容
	<p>田村： なるほど。素晴らしい。</p> <p>廣川： 立派な門松でしたね。</p> <p>田村： めちゃくちゃデカいですね。あれだけのサイズを作り上げるの大変ですけど、あれだけインパクトがあるとめでたい気持ちになるし、嬉しいですよ。</p> <p>廣川： 大きな福がやってきそうですね。</p> <p>田村： 「すいたティーンズクラシックフェスティバル」、 すごいレベル高かったですよね。</p> <p>廣川： プロ顔負けというかね。</p> <p>田村： あんな生でぜひとも観たいですけどね。せっかくですからね。 小さい女の子もメンバーの中ではちょっと年上のお兄さんも それぞれ「音」って言葉をすごく使ってて、「音に落とし込む」とか 「こんな音出したい」とかっていうのが、表現者やなって。 素晴らしかったですね。</p> <p>廣川： 以上、「吹田のトピックス」でした。</p> <p>田村： ということで、エンディングでございます。あっという間でございます。</p> <p>廣川： 久しぶりのスタジオでちょっとドキドキしてたんですけど。</p> <p>田村： あ！そうですか！？ でも、あれだけパフェ食べたら満足でしょ？</p>

廣川：

満足です。お腹いっぱい。嬉しい、幸せ。

田村：

どうでしたか？ 久しぶりのスタジオは？

廣川：

緊張してたんですけど、久しぶりに田村さんともお話しできて嬉しかったです。

田村：

ホンマですか？ 何も思っていないでしょ？ 「やっと今日の仕事終わった」って  
どこでしょ？ベテランですし、職人さんの域でしょ？

廣川：

とんでもないです。まだまだペーパーなので、いろいろ勉強させてください。  
今年もよろしくお願いします。

田村：

こちらこそよろしくお願いします。  
ということで、それではまた次回お会いしましょう。さようなら。